

地域で広がる健康づくりのかたち

第2回 東京カートグラフィック株式会社

会社の“健康”で働き方を改善、業績もアップ

“健康”への意識は、個人だけでなく企業としての取り組みも重視されるようになってきている。経済産業省による「健康経営優良法人認定制度」なども広がる中、杉並区内でも従業員が健康的に働ける環境づくりに力を入れる企業がある。健康づくりは、働き方や会社の成長にもつながっている。

健康経営優良法人ブライツ500

「ブライツ500」は、経済産業省が推進する「健康経営優良法人認定制度（中小規模法人部門）」の中でも、特に優れた取り組みを行う上位500社に与えられる認定。従業員の健康づくりや働きやすい職場環境づくりが評価され、人材確保や企業イメージ向上にもつながる制度として注目されている。

いい仕事はコミュニケーションから健康的に会社のベースを整える

経営者として目指すもの、それは「人を幸せにする経営」。そう語るのは、東京カートグラフィック株式会社（天沼2丁目）の西山和輔代表。同社は経済産業省の「健康経営優良法人ブライツ500」に2年連続で認定されている区内唯一の企業だ。

同社は“地図”の会社として、地図制作や地理情報システム（GIS）の開発などを手がけている。官公庁の仕事も多く、かつては長時間労働も課題だったという。そこで約15年前から「残業を減らす」ための働き方改革に着手。日々の小さな課題を一つずつ見直しながら、社内環境



西山和輔代表



休憩スペース

の改善をコツコツと積み重ねてきた。

その結果、残業時間は大幅に減少し、売上も向上。健康づくりと働きやすい職場環境が、会社全体の力につながっている。

社内の衛生委員会では、役員と従業員が一緒になって改善を進める。健康測定や健康情報の発信、レシピ紹介、健康に関するアンケートなど、楽しみながら参加できる工夫も多い。令和4年にはその取り組みが評価され、労働基準監督署から表彰され、自信につながった。

「いい仕事をするためには、コミュニ

ケーションが大事」と西山代表。その考えから、社員全員が同じフロアで働けるオフィスにこだわってきた。ゆったり休めるスペースも設けるなど、社内には“健康的に働く”ための工夫が随所に取り入れられている。

健康づくりは特別な制度だけではなく、日々の小さな改善の積み重ねから始まる。東京カートグラフィックの取り組みは、地域企業にとっても大きなヒントになりそうだ。

地域情報紙 [月刊]

